

平成 27 年 12 月 7 日

富良野市議会議長 北 猛 俊 様

総務文教委員長 萩 原 弘 之

都市事例調査報告書

平成 27 年第 3 回定例会において、都市事例調査の許可を得た所管にかかわる事務について、下記のとおり事例調査を実施したのでその結果を報告します。

記

1. 調 査 地 苫小牧市、石狩市、幕別町
2. 日 程 10 月 7 日～10 月 9 日 3 日間
3. 参 加 者 関 野 常 勝・岡 本 俊
後 藤 英知夫・渋谷 正文
天 日 公 子・萩 原 弘 之
4. 調 査 事 項 図書館について
5. 調 査 内 容 別紙のとおり

= 別 紙 =

— 苫小牧市 —

概 要

苫小牧市の地名は、苫小牧川を指すアイヌ語「マッ・オマ・イ（山の方に・入っている・川）」に、沼を意味する「ト」を頭につけて、「トマコマイ」となった。面積 561.57 km²、人口 173,800 人。寛政 12 年、蝦夷地の警護と開拓のため八王子出身者が現在の勇払に入植。その後明治 6 年、開拓使が勇払郡出張所を苫小牧に移転し、これを苫小牧の開基としている。胆振地方の東部に位置し、札幌都市圏にも近く、国際拠点港湾である海の玄関「苫小牧港」と空の玄関「新千歳空港」のダブルポートを擁し、鉄道、国道、高速道路の交通アクセスに恵まれ、北海道を代表する工業都市・港湾都市として発展してきた。豊富な水と木材資源に恵まれていた苫小牧は、明治 43 年に王子製紙苫小牧工場が操業を開始。以来、紙・パルプ、自動車部品、金属などの工業基地、石油備蓄基地、油ガス田のエネルギー基地、リサイクル産業基地として産業の集積が進む。一方で、樽前山麓の広大な森林、ウトナイ湖などの豊かな自然環境を誇り、「人間環境都市」を掲げている。

苫小牧市における図書施設について

苫小牧市の図書館は、昭和 24 年に公民館の一角に書架を設置し 900 余冊の蔵書でスタートした。その後、市立苫小牧図書館として独立した施設への移転を経て、昭和 63 年 11 月に苫小牧工業高校の跡地にサンガーデンとの併設で、現在の苫小牧市立中央図書館が開館した。また、コミュニティセンター 4 カ所と植苗ファミリーセンター、勇払公民館における 6 カ所の図書室（以下、地域図書室）と移動図書館車を整備しており、貸出から返却まで中央図書館に準じたサービスを利用することができる。

中央図書館と 6 図書室、移動図書館車を含めた所蔵資料数は図書 50 万 3 千点で、雑誌、映像、録音図書を含めると 53 万 3 千点である。平成 26 年度の利用状況は、貸出資料数が 88 万 8 千点で、貸出人数は 19 万 8 千人と平成 25 年度まで漸減傾向だったが、平成 26 年度は貸出資料数、貸出人数が伸びている。

中央図書館について

開館時間は 9 時 30 分から 20 時までで、閉館日は月曜日（祝日の場合は開館）、年末年始、毎月最終金曜日（月末整理日）になっており、平成 26 年度の開館日数は 303 日であった。貸出条件については一人 10 点まで 2 週間以内となっている。

中央図書館における利用状況について、平成 26 年度の所蔵資料数は図書で 37 万 1 千点、雑誌、音声、映像資料すべての資料を合わせると 39 万 9 千点である。貸出資料数は 46 万 5 千点、貸出人数は 9 万 5 千人で、いずれも 25 年度の利用実績を上回っている。

さまざまなニーズへの対応として、来館者へのバリアフリーの取り組みを行っ

ている。すべての利用者が不便することなく利用することができるよう、ベビーカーの増設や授乳スペースの設置、拡大鏡、老眼鏡、筆談ボードの配備、大活字本や補聴器を導入、車いす専用駐車場を整備している。

地域図書室について

昭和 50 年に勇払と錦岡に図書コーナーが設置されたことにより始まる。現在では、勇払公民館図書室、住吉コミュニティセンター図書室、沼ノ端コミュニティセンター図書室、植苗ファミリーセンター図書室、豊川コミュニティセンター図書室、のぞみコミュニティセンター図書室の 6 拠点を構えている。貸出の条件は中央図書館と同様に利用することができる。

移動図書館車について

昭和 46 年 9 月から「はなます号」が運行を開始し、平成 24 年 9 月の廃止まで市内 25 カ所を巡回していた。昭和 48 年 11 月からは「ライオンズ号」の運行が開始し、平成 11 年の廃止まで「はなます号」と 2 台体制で市内 50 カ所を巡回していた。

その後継車として平成 24 年 9 月にトヨタ自動車北海道株式会社の創業 20 周年を記念して、移動図書館車「とまチョップ図書館号」が寄贈され、月 2 回の拠点が 24 カ所と月 4 回の拠点が 1 カ所の市内 25 カ所、商業施設、公園、小学校、幼稚園などを巡回し、中央図書館、地域図書室同様に利用することができる。

苫小牧市図書館基本計画について

1．策定までの経緯

平成 23 年度に実施した利用者アンケートの結果、今後の図書館に求めることとして「図書資料の充実」が 1 位にあげられ、「平成 24 年度図書館運営の点検及び評価」では、貸出冊数、蔵書数、購入雑誌数、図書購入費が全国平均を下回っていたことが課題としてあがった。そこで、苫小牧市がめざす図書館のあり方を明確にし、図書館が持っている機能の充実、市民サービスの質的向上を目指し、平成 26 年 6 月に苫小牧市図書館基本計画が策定された。

2．理念と基本目標

文部科学省の「これからの図書館像」や「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」で、市民や地域に役立つ知の拠点として図書館が位置付けられ、また、平成 20 年に改正された図書館法では、図書館が行う事業に学んだ成果を活かす機会の提供が追加された。これを受け、基本計画では基本理念として「生涯学習における中核的な社会教育施設として、市民の学習活動を支援するため、図書資料の収集・活用と機関紙やインターネットによる情報提供を行い、市民が等しく自由に、本や資料・情報を利用でき、市民や地域に役立つ知の拠点となる図書館」を掲げている。これを具現化するために 5 つの基本目標とその具体的施策を設定している。

基本目標 1 「情報と知識を集積した知の情報拠点としての図書館」

・施策...新刊・専門書の充実、電子情報の提供、ICTへの対応

基本目標 2 「読書活動推進、支援拠点としての図書館」

・施策...中高生向けの蔵書を充実、学校支援の充実、幼児の読書普及活動の充実

基本目標 3 「市民が利用しやすく、役立つ図書館」

・施策...利便性の向上、レファレンスサービスの充実、多文化サービスの充実

基本目標 4 「郷土の歴史と特性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館」

・施策...地域の情報、地域ゆかりの資料を収集、郷土資料の充実・発信

基本目標 5 「人と本、人と人の出会いを広げ、ゆとりとぬくもりが感じられる図書館」

・施策...生涯学習の場を提供、市民協働の図書館づくり、接遇研修の充実

3. 計画の評価、これまでの実績と効果

基本計画の評価については、平成 26 年度から平成 30 年度までの計画期間内における 5 つの基本目標の取組結果について、図書館による自己評価と図書館協議会による第三者評価を平成 31 年 3 月に行う。点検の内容としては、成果目標に掲げた数値目標は達成できたか、それぞれの具体的施策は目的を達成できたかについて、5 段階で評価することとしている。

運営体制と特徴的な取り組みについて

運営については現在指定管理者制度が導入され、3 団体で構成された T R C 苫小牧グループによって運営されている。教育委員会が監督機関として、苫小牧市立中央図書館協議会が諮問機関として位置づけられている。職員数は 28 名で正規職員 1 名、契約社員が 27 名で、そのうち司書の有資格者数は 18 名となっている。

1. 録音図書、点字図書の貸し出し

市内に在住または東胆振在住で苫小牧市内に在勤、市内長期滞在者で障害者手帳を有する人を対象としたサービスを実施している。録音図書の貸し出しについては、来館者の場合 2 週間、郵送での貸出は 3 週間の貸出期間で 10 点まで借りることができる。市外の図書館に所蔵されている資料も借りることができ、こちらは一度に 5 点まで利用することができる。点字図書の貸し出しについては、所蔵タイトル数 547、所蔵数 1,556 点の資料を揃えている。

2. 対面朗読の実施

苫小牧市朗読赤十字奉仕団の協力により、利用者が読みたい資料を選び、朗読ボランティアが対面で朗読するサービスで、自分で持ち込んだ資料や当日、図書館の棚にある資料の中で朗読サービスとして受けることができる。利用可能日は毎月第 1・2・3 の水曜日と土曜日の 10 時から 12 時と 13 時から 15 時である。

3. ICTへの対応

平成 26 年 10 月 29 日から、電子図書の貸し出しが始まり、利用については市内

在住者または在勤・在学者が利用可能で、中央図書館で利用の登録を行ってＩＤとパスワードを取得し、一人３点まで２週間借りることができる。本を借りに図書館まで行かなくても、インターネット環境と対応機器がそろっていればいつでもどこでも借りることができ、返却は期日が来たら自動的に返却されるようになっている。

４．小学校への支援の取り組み

市内小学校への読書活動支援事業として、スクールメール便「ブックちゃん」事業を実施している。テーマごとにまとめた図書セットを、図書館から小学校宛に届け、一度に２セットまで、２週間の利用ができる。図書セットのテーマは大きく二つあり、一つ目は調べ学習用セット、二つ目は朝の読書用セットである。前者は教科や総合学習の調べ学習で活用することができ、１５テーマ１６セット、全６０９冊が整備されている。後者は１セット４０冊で各学年３種類の計１８セット７２０冊が整備され、それぞれ貸し出しを行っている。

考 察

苫小牧市立図書館は、富良野市と比べて施設規模や蔵書数に大きな差があるが、基本計画に沿った事業の推進に第三者評価制度を取り入れて、都度あげられた課題の改善を検討する体制は、基本計画を検証することにおいても重要な対策であると考ええる。また、施設の使用について、児童や乳幼児の居場所が確保されており、すべての利用者が利用しやすいようにバリアフリーを推進した施設になっている。設備面でも情報サロン・電子書籍・無線ＬＡＮなどを整備し、充実した内容になっている。このように市民ニーズに対応した環境の整備は、将来に向けて富良野市でも拡充するべきと考える。富良野市はこれからの図書館像を考えると、様々な観点から課題を解決するための検証をすることが望ましい。

—石狩市—

概 要

石狩市の地名は石狩川を指すアイヌ語「イシカラペツ（曲がりくねって流れる川）（（神が）美しく作りたる川）」に由来する。面積 722.42 ㎢、人口 59,176 人。石狩地方北部に位置し、平成 17 年 10 月に厚田村、浜益村を編入合併した。江戸時代から石狩川河口付近がアイヌ民族との交易所に指定されるなど、西蝦夷地の中心として発展してきた。明治時代のサケ漁最盛期には、年間 100 万尾超の水揚げがあったといわれ、漁期には 2000 人以上の出稼ぎ労働者で賑わいを見せた。昭和 40 年代以降は宅地開発の進行、石狩湾新港の開発により物流、エネルギー、リサイクル、情報産業の拠点として企業や工場が進出している。

厚田区は、江戸時代より鯿・鮭の漁場として栄え、明治に入り各地から団体で入植し、農業に従事した。現在では都市近郊型農業に力を入れている。漁業は、栽培漁業の確立や大型漁礁の投入など漁場生産力の増強を図っている。浜益区も古くから漁場として栄え、江戸時代に交易所や荘内藩の拠点が設けられ、国元から警備の武士や農民が移住した。現在では、米、野菜、果樹の栽培、肉用牛の飼育を行い、

漁業ではヒラメ等の稚魚放流などによる資源増大を図っている。

石狩市民図書館について

石狩市（当時石狩町）では昭和 40 年代から、公民館に図書室として図書館機能を有する施設を開設してきた。昭和 50 年代から図書館設置の要望が市民から出され、平成 5 年に石狩町図書館構想策定委員会で図書館建設計画が始まり図書館開設準備室を設置し、準備が本格的に始まった。建設に当たってはプロポーザル方式で選定し、平成 12 年に石狩市民図書館が開館した。

「図書館の中にまちをつくる」という理念で、エントランスの壁の曲線は石狩川、開架スペースの青い床は冬の日本海を表し、照明も街灯を模した形をしており、随所に特徴的な設計が施されている。施設面では、だれでも利用することができるバリアフリーをめざし、段差のない床、広い開架スペースに配慮されている。その他、子どもたちによみきかせを行う赤い壁で卵の形状をしたおはなし室、目の不自由な方への朗読を行う朗読サービス室、音響・映像資料の鑑賞ができる視聴覚ブース、ボランティアの作業室を兼ねた研修室が設けられている。また、本館の他に、花川南、八幡、浜益の 3 分館と地域開放の学校図書館として厚田のあいかぜ図書館の 4 つの拠点を設定している。設備面では、日本の公共図書館では初導入の自動貸出機を 4 台、図書の除菌をするクリーナー、貸出の手続き忘れを知らせてくれるブックディテクションというゲートが設置されている。分館を含めた図書館の利用状況について、平成 26 年度の所蔵資料数は 31 万 4 千点で、その内、本館には 28 万 9 千点である。貸出資料数は 56 万 5 千点、貸出人数は 12 万 6 千人でともに前年度を上回る利用があった。

本館の開館時間は火・金曜日が 10 時から 18 時まで、水・木曜日が 10 時から 20 時まで、土・日曜日・祝日は 10 時から 17 時までで、閉館日は月曜日、祝日の翌日（祝日が金・土・日の場合は次の火曜日）図書整理日、特別整理期間、年末年始となっており、平成 26 年度の開館日数は 291 日であった。貸出条件は図書・複製絵画の貸出上限はなく、借りたい数だけ借りることができ、CD は 5 点まで、VHS・DVD は 2 点まで、2 週間以内となっている。

1. ボランティアの活動

現在、70 名程度が活動しており、大きく 5 つのボランティア団体がある。

おはなしボランティア...おはなし会を月に 2 回開催。

修理ボランティア...図書館資料の修理を週 1 回実施、出前で修理講習会も実施。

布の絵本にじ...フェルトを使って絵本を作成。

ブックスタートボランティア...会場での読み聞かせや配布物を準備

フロアボランティア...フロア業務、企画事業の開催

各団体の活動拠点として、活動室を提供することにより、ボランティア活動の推進を図っている。これ以外に、読書活動関係団体とも連携も行っている。

2．他の図書館との連携

平成 25 年 10 月に宮城県の名取市図書館、石川県の輪島市立図書館と石狩市民図書館の 3 館による友好図書館を締結している。名取市は浜防風の関係で交流があり、東日本大震災の時に石狩市から物的支援や職員派遣を行ってきた経過がある。輪島市は、合併前の厚田村と門前町（現輪島市）の間に北前船の歴史の中でもともと交流が持たれ、友好都市の締結を行っていたことから合併後も友好都市になった経過がある。名取市との提携をする際に、輪島市も含めて友好図書館として交流を行っている。また、もう一つの友好都市の沖縄県恩納村とは、平成 27 年 4 月に恩納村文化情報センターと友好図書館を締結している。恩納村は国体のソフトボール競技の開催地として、国体旗が引き継がれたことから交流が行われ友好都市を締結した経過がある。連携の目的は、防災や文化面での理解を深め、危機的な災害の時には相互に協力することである。連携を通して、職員やボランティアの方の人的な交流が行われ、見聞を広めたり、スキルを磨いたりするなどの効果が期待される。

また、平成 13 年 1 月から、市内の藤女子大学図書館との連携を開始し、16 歳以上の石狩市民で石狩市民図書館の利用者登録をしている人であれば、利用が可能になった。石狩市民図書館のカウンターで発行される紹介状と住所・身分等を証明できるものを藤女子大学図書館のカウンターに持参し、手続きを行う。貸出冊数は 10 冊まで、期間は 2 週間以内では借りることができる。

3．宅配サービス

平成 23 年 3 月から、多忙で利用できない方や交通の不便なところに住んでいる住民にも図書館サービスを活用してもらえよう、電話やインターネットを通じて貸出の申込みを受け、ゆうメールを利用して自宅に届ける「宅配サービス」を実施している。送料は利用者が負担するが、障がいのある方の利用にあたっては料金の減免や免除している。貸出について、1 回につき 3 kg まで、CD は 2 点、映像資料は 1 点までで 3 週間借りることができる。

4．ブックスタート事業

平成 18 年度から 10 か月健診の会場で、保健師、ボランティア、図書館司書連携のもと、乳児の健診と併せて、ボランティアが絵本の読み聞かせを行い、図書館司書が赤ちゃんの保護者の一人ひとりに、「乳児へのことばかけ」の重要性を説明し、ブックスタートパックを手渡ししている。ブックスタートパックには赤ちゃん絵本、赤ちゃん絵本の紹介冊子、子育て情報リーフレット、図書館利用の手引き、利用登録申込書などが入っている。その後は 1 歳半検診の会場で絵本の読み聞かせや、ブックスタートパックを受け取れなかった人に渡す「ブックスタートフォローアップ」活動を実施している。

また、第 2 のブックスタートとして、平成 27 年度から小学校の就学時検診の会場で、ブックリストと図書館の利用案内を配布している。図書館の図書を会場に持っていき、出前で貸出を行えるようにしている。読書に関心のある家庭もさること

ながら、本に親しみのない、興味のない家庭をターゲットとして、学校に上がる前に本に親しんでもらい、図書館の利用促進につなげている。

5. 学校図書館との連携

巡回文庫「ブックンボックス」を学校に巡回し、学級向けの貸出図書として朝読書や調べ学習等に活用している。9500 点の資料を 280 のボックスで設けており、小学校 12 校、中学校 2 校で利用されている。

平成 18 年度から学校図書館等充実事業として、市内の学校図書館をより使いやすく、より魅力的なものにするために学校図書館の環境整備を実施している。きっかけは学校の統廃合に伴い、学校図書館の整備にも目が向けられ、環境整備が始まった。図書館の整備に児童・生徒たちも自ら作業に参加することによって、図書館に親しみを持つという効果もあり、利用も倍以上になったという実績がある。

整備の内容

- ・不要図書の整理、ラベルの貼付、分類別に整理
- ・小学校への司書配置（双葉小、南線小、花川南小、花川小、紅南小）
- ・分館職員派遣（八幡小）
- ・学校図書館と市民図書館とのオンライン化（双葉小、南線小、緑苑台小、花川南小、花川小、紅南小）
- ・厚田小と厚田分館の機能を統合し、あいかぜ図書館として地域開放
- ・中学校では 8 校中 2 校で整備

考 察

コンセプトである「図書館の中にまちをつくる」という発想は既存の概念を払しょくするものであり、市民とともに創りあげていく図書館をイメージするにふさわしい施設であると感じた。また、第 2 のブックスタートとして、「家読」事業を小学校 1 年生から対象に開始しており、家庭や家族で本にふれあうきっかけづくりの推進にも興味を持ったところである。本市においても図書館としての機能の充実を図るだけでなく、複合的に利用することができる市民の交流拠点にするために、市民協働の図書館づくりを考える上で大いに参考になるところである。

—幕別町—

概 要

幕別町の地名は、アイヌ語の「マク・ウン・ペツ（後ろ・にある・川）」に由来する。面積 477.64 km²、人口 27,441 人。十勝地方の中南部に位置し、平成 18 年 2 月に忠類村を編入合併した。パークゴルフ発祥の地とナウマン象の化石で知られる。

明治 15 年に幕別地区、明治 27 年に忠類地区への入植が始まり開拓が本格化する。古くから畑作が盛んな地域で、気象条件や土壌条件に対応した作物の栽培がおこなわれ、小麦や豆類、芋類などの野菜は道内有数の産地として知られており、加工食品の生産も盛んである。特に、長芋の新品種「和捻じょ幕別 1 号」は外見のよさ、調理時のしやすさ、食味などから注目されている。昭和 50 年代からは川を挟んで

帯広市と近接する札内地区はベッドタウンとして人口が増加している。

旧幕別町は、昭和 58 年グランドゴルフをヒントに「パークゴルフ」を考案し、現在では愛好者が推定で 70 万人にのぼる。旧忠類村は昭和 44 年にナウマン象の化石の一部が発見され、調査の結果、ほぼ 1 頭分の化石が発掘された。その後は「ナウマン象の里」として知られ、観光や土産品など観光資源として脚光を浴びている。

幕別町図書館について

幕別町図書館は昭和 62 年に図書館建設基本構想を策定し、整備に向けた準備を始めた。その後、平成元年に図書館建設検討委員会が設置され、平成 3 年 4 月に開館し、平成 4 年には、移動図書館車「スワディ号」の運行を開始した。忠類村との合併により、忠類ふれあいセンター福寿図書室を忠類分館として運営している。

平成 26 年度の本館と札内分館、忠類分館、スワディ号の所蔵資料数は 23 万 4 千点である。利用状況は貸出資料数が 18 万 2 千点で、利用人数は 3 万 7 千人になっている。本館の開館時間は 10 時から 18 時まで、札内分館は木曜日のみ 10 時から 20 時まで、また忠類分館については 10 時から 21 時まで開館している。閉館日は火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、図書整理日（毎月末土・日曜日・祝日の場合はその前の平日に繰り上げ）になっており、平成 26 年度の開館日数は 294 日だった。貸出条件については、一人 10 点まで 2 週間以内となっている。

図書館の運営にあたって、職員の配置について本館 8 名（内司書 5 名）、札内分館 5 名（内司書 3 名）、忠類分館 3 名（内司書 1 名）の合計 16 名で運営し、ウェブサイトへの更新作業やブログの投稿を実施している。

1. ウェブページを活用した情報発信について

平成 26 年 4 月に完全リニューアルし、トップページには同町百年記念ホールにある緞帳をモチーフとしたデザインで 12 の項目について掲載し、司書が毎日更新している。トピックの下には本棚が掲載されており、選書の情報へのアクセスをスムーズに行なえるようにしている。

今日の一冊...今日は何の日になんだ本を紹介。一日一冊紹介。

二十四節季...図書館に入荷した新しい本を、24 の季節に合わせて紹介。

千本万架...毎月、テーマを設けて 3 館同時開催される、特集本の紹介。

三冊堂...テーマの連想性を広げる目的で、分野の異なる 3 冊を紹介。

あのひとの本棚...幕別町で活躍する人の本棚にある本を紹介。

北の本棚...引き取った図書や寄付を受けつけた図書を紹介。

百架繚乱...図書館企画の紹介。

MCL コレクション...テーマを決めて写真とともに幕別を紹介。

、 、 ...本館、札内分館、忠類分館の紹介。

幕別 BW 研究所...本に関わる些細なことを研究したことを紹介。

また、インターネット上にバーチャル本棚を開設し、蔵書のタイトルにカーソルを合わせてクリックすると、蔵書の検索画面やインターネット販売サイトのAmazonに接続される。本のデザインがどういうものであるかを認識するということと、その本と関わりや繋がりのある本を、利用者がイメージを膨らませられるように、このシステムを活用している。

2．読書推進の取り組み

・まぶ達メンバー

自分のバーチャル本棚を作り、利用者同士で本について語り合う、読書コミュニティを目指したもの。インターネットで本の貸出予約もできる。

・よむとも 2015

平成 23 年より毎年内容を変えながら実施しており、本を借りてスタンプを集めるラリーの第 5 弾である。今年は、本を借りて面白かった本に星をつけ、図書館に掲示するとシールがもらえる。お気に入りの本 30 冊（スワディ号利用の場合は 15 冊）を見つけて、その中から本を 1 冊紹介すると、オリジナルグッズをプレゼントする企画を実施している。

3．図書の引取り、寄付の受付

週刊誌の記事がきっかけで、評論家や作家のみなさんが本の置き場に悩んでいることがわかり、幕別町が引き受ける旨の手紙を出したことから始まった。各界で活躍されている方からこれまでに寄贈された本は 29,000 冊にものぼり、その後も継続して本を送り続けている方もおり、専門書も数多くそろっている。一部を除いて貸出もできる。

4．図書館応援団（ボランティア、協力団体）

読み聞かせの会が 5 団体あり、本館を始め、札内分館、忠類分館をそれぞれ拠点にして、小学校や保育所への出前紙芝居や手づくりの大型紙芝居など、各団体で独自の活動を展開している。

図書館運営に関するボランティアとして、「まぶサ（幕別BOOKサポーター）」、「まぶ達（幕別BOOKコミュニティ）」が活動している。まぶサは本棚の編集、図書の修理・装備、行事の企画、読み聞かせを行い、まぶ達はウェブページに関して、コンテンツの編集、記録・動画の編集、情報発信を行っている。

その他協力団体として、町民の文芸作品を編纂する町民文芸まぐべつ編集委員会や移動図書館車への児童書、絵本の寄贈を行う幕別ロータリー会、職人が図書館の本棚を製作し寄贈した幕別技能士会がある。

5．2次元カラーバーコードによる蔵書管理

カメレオンコードとも呼ばれており、幕別町で導入しているものは縦 6 マス、横 4 マスに青、赤、黄で識別したバーコードを、すべての書架と図書に貼り付けて管理しており、ウェブカメラを書架と図書のバーコードにかざすと、書架にあるべき

図書と図書が本来あるべき位置の複数の情報を瞬時に端末の画面上で確認することができる。これにより自由な発想による図書の配置が可能となるだけでなく、検索機能の向上により、蔵書の点検や貸出、返却業務を瞬時に行うことができ、点検による休館日を廃止した。また、同様の機能がある電子タグは費用面で負担が大きく、一般の図書館で導入するのは難しいとされるが、カメレオンコードは低いコストで導入することができる。

6．学校図書館との連携

第2期幕別町子どもの読書活動推進計画で学校図書館への支援策を盛り込み、学校図書館の図書資料や図書室の整備を平成23年から取り組んでいる。改装に当たっては希望した学校に対して、どんな図書館にしたいかを先生や子どもたちに聞きながら協議を重ね、基本的にお金をかけずにあるものでやりくりして、よりよい学校図書室へと仕上げていく。整備には先生だけではなく、児童・生徒も参加して作業を進め、子どもたちも一緒に関わることによって、本に対する愛着と自分の学校図書館に対する思い入れの醸成に繋がっている。また、学校図書の選書にも力を入れ、幕別町図書館の司書が図書の紹介を行い、入荷した図書の登録まで行い、学校へ渡すという作業をしている。

考 察

幕別町の読書推進に関わる取り組みは、町民全体の意識の高揚を図り、関わりやすい環境と簡素化した蔵書の管理システムを整備することにより、高い効果をもたらしていると考ええる。富良野市の図書管理システムは蔵書点検や貸出作業に多くの時間と労力を割いており、早期の改善が必要である。また、図書館のウェブページの運用については、広く住民に図書の閲覧と情報提供ができることから、本市においても市民が興味を持てるような取り組みが必要だと考える。相対的に図書館と住民との関わり方が、図書館の事業に大きく影響を与えることから、今後の連携のあり方について検討が必要である。